

## 『天地創造賛歌を生態学的回心で読み解く』

聖書講座 22 年度資料 (22.6.8)

### 1. 天地創造の福音

バビロニア捕囚の体験は、神へのさらなる深い信仰へと導かれる転機となったと言えよう。つまり、捕囚という屈辱に満ちた試練の最中、イスラエルの民が再び希望を取り戻すよう励ますために、祭司グループは万物の創造主に対する絶対的の服従を求めたとき、民は「全能者である神、主よ、あなたの業は偉大で、驚くべきもの。あなたの道は正しく、また、真実なもの（黙示 15.3）。」と、全能の神へのさらなる信頼の内に慰めと希望を再び見出すことが出来たのではなかろうか。

つまり、無から天地万物を創造なさった神は、この現実の世界にも介入なさり、あらゆる方法で地球上の悪を克服なさるはずだ（教皇フランシスコ『回勅ラウダート・シ：共に暮らす家を大切に』74 項参照）という切なる願いである。

### 2. 宇宙の神秘

ユダヤ・キリスト教の伝統において、「被造界」という語は、どの被造物にもそれぞれ固有の価値と意義を与える神の愛の満ちた計画に関係しているため、「自然」よりも広い意味がある。つまり、被造界は、すべてのものの父の広げた御手<sup>みて</sup>からいただくものとして、また天地万物の交わりへと私達人間を招く愛によって照らされた現実として見ることで、初めて理解できる（同上 76 項参照）のではないか。

「み言葉によって天は造られた（詩編 33.6）」。これは、宇宙万物が、混沌や偶然からでなく、一つの決断の結果として生じたことを告げ、またこのことは世界をいっそう称揚させる。つまり、ことばによる創造は、自由な選択を示している。だから、被造界は愛の秩序に与っていて、まさに神の愛が、創造されたすべてのものを動かす原動力にほかならない。

「あなたは存在するすべてのものを愛し、お造りになったものを何一つ嫌われない。憎んでおられたのなら、造られなかったはず（知恵 11.24）」なのだ

(同上 77 項参照)。

同時に、ユダヤ・キリスト教の考えは、自然を非神格化する。従って、自然に対する私たち人間の責任がいつそう強調される。つまり、人間は、世界の一部として、世界を守りその潜在性を発揮するための能力を培う義務がある。

だから、自然の価値と脆弱さを、また同時に神からいただいた能力を認めるならば、際限のない物質的進歩という現代の神話を捨て去ることができる(同上 78 項参照)のではないか。

また、人間以外の生き物たちを、人間の恣意的な支配に服従する単なる客体とみることも間違いである。だから、自然界を利潤を生む元金としか見なさないなら、それは社会にゆゆしき結果をもたらすであろう。従って、「力は正義なり」というものの見方が、途方もない不平等や不正義、そして人類の大多数に対する暴力を生み出す(同上 81 項参照)。

### 3. 被造界の調和の中の被造物それぞれのメッセージ

日本の司教団は、啓発的な観察眼を提供してくれた。「それぞれの生き物が、それぞれのいのちの歌を歌っているように感じ入ることは、神の愛と希望の中に我々が喜び生きることにつながる」がゆえに、こうした被造界の観想は、神が我々に届けようとするお望みになる教えを、一つ一つのものの中に発見させてくれる(同上 85 項参照)のではなからうか。

ブラジルの司教団は、自然は一つの全体として神を顕示しているだけでなく、また神の現存の場でもある、と指摘してくれる。この現存を発見することによって「エコロジカルな諸徳」を培うよう導かれる。

### 4. 天地万物の交わり

仲間である人間に対する優しさや共感や配慮が欠けているならば、人間以外の自然との親しい交わりの感覚は本物ではない。あらゆるものは、つながっている。だから、環境への配慮はこうして、仲間である人間への真摯な愛、そして社会問題の解決のための揺るぎない献身と結ばれる必要がある(同上 91 項参照)。存在するあらゆるものは関係しており、われわれ人間は、被造物一つ一つに向けられる神の愛によって結び合わされつつ、驚きに満ちた巡礼を共にする兄弟姉妹として集められている(同上 91 項参照)と言えよう。

イエスの向った羊 11カ 2章



だと思って言った、「あなたが、もしあの方を選び去ったのでしたら、どこに置いたのか、教えてください。わたしがあの方を引き取ります」。イエスは、『マリア』に仰せになった。マリアは振り返って、ヘブライ語で、『ラボニ』つまり『先生』—と言った。イエスは仰せになった、わたしにすがりつくのはよしなさい。」

・初めて弟子たちの現れた復活のイエス (20.19-23)

10章3 → 羊飼いの歌

わたしたちにとって復活のイエスにお会いする体験は何か。  
あるいは、わたしたちの只中に臨在し働いておられる復活のイエスにお会いできるのか。

▽ 使徒パウロによる復活体験とは コリント 15.12 ↓

- (1) キリストの復活 コリント 15.12 - 54
- (2) キリストを信じた者の復活 コリント 15.35 ~ ~~58~~ 54
- (3) 復活した人間の体 コリント 15.35 ~ 58
- (4) キリスト者の新しい命 コロサイ 2.20 ~ 3.4
- (5) 主の再臨と死者 ラサロニケ 4.13 ~ 18

